

# 図書館だより 2月号

令和6年2月26日  
万代高校図書館

今年度も、残すところあとわずか。本当に早いものですね。長く寒い冬も終わりに近づき、暖かい日も増えて、春の足音が聞こえてくるようです。春を待ち焦がれるこの感覚は雪国新潟ならではの。そんな喜びと同時に、春は慣れ親しんだ環境に別れを告げる季節でもあります。まもなく万代高等学校を巣立つ3年生の皆さんはもちろん、1・2年生の皆さんも、進級することで初めての経験をすることになります。そんな嬉しさと寂しさ、期待と不安の混じった気持ちを、毎年この時季になると、私も皆さんのそばで感じています。

今年度も、たくさんの生徒の皆さんが図書館を利用してくれました。そんな皆さんに、私は「図書館」という場所の価値や、「本」の楽しさ、素晴らしさをどれだけ伝えられたらかと、年度末にあたり自問しています。これまでと違って、本は全ての人にとって身近なツールとは呼べなくなってしまったのかもしれませんが。本は「当たり前」にそばにあるものから「自分で手を伸ばさないと触れられないもの」になってしまった気がしています。それでも私は本が好きですし、皆さんにとっても、本から得られるものは計り知れないと本気で信じています。

最近読んだ小説が面白くて、登場人物にすっかり感情移入して読んでいました。読み終えて本を閉じたとき「この魅力的なキャラクターたちと別れるのが辛い」とさえ感じました。物語の中の人物と時を共にして、こんなふうに心を動かされることも、一つの出会いと別れの経験と言えます。出会いと別れが人を成長させるのだとしたら、大切に思える人や本との出会いに、無駄なものはないと思えますよね。

新しい季節と共に訪れるひとつひとつの出会いが、皆さんにとって幸せなものでありますように。心から願っています。

## 3月の図書館利用について

- 3月5日～8日、13日、15日は学力検査及び追検査、合格発表のため閉館です。
- 3月20日～29日の学年末休業中は、午後5時閉館です。
- 新年度は4月8日から開館します(4月1日～7日は閉館です)。



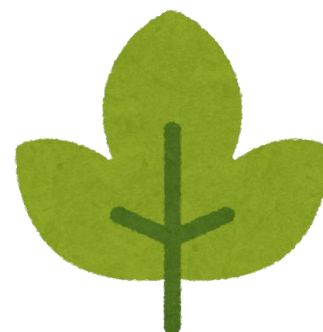
## 千の扉あけて 第30章

本の表紙を開いて最初に現れる、タイトルの書かれたページのことを「扉(とびら)」と呼びます。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉を開くこと。これから皆さんを、無数にある扉のひとつへご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅した時、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。今回の「扉」は…

### 『エリック』

ショーン・タン著  
河出書房新社

726  
タ



出会いと別れの春にちなみ、少し不思議な物語を紹介します。図書館の「司書のおすすめコーナー」でも展示しているオーストラリアの作家、ショーン・タンの作品です。

……  
交換留学生として、ぼくの家ホームステイに来た「エリック」。ぼくはエリックに、この街の一番素敵なものを見せたいと張り切るけれど、エリックが興味を持つのは道端に落ちている小さなものばかり。お母さんは「きつとお国柄ね」というけれど、ぼくは少し面白くない。ある日突然「ごきげんよう」と去ったエリックが残していったものとは…?

……  
自身も移民の経験があるショーン・タンの作品には、見たこともない国に放り込まれた主人公の戸惑いや寂しさがどこかに滲んでいます。中でもこの短い物語の中には、違う環境、違う文化、違う価値観で育った者同士が、コミュニケーションの壁を越えて分かり合おうとする姿が美しく描かれていて心に残る一冊です。

春からは慣れた環境を離れ、新天地での生活を始める人もいるでしょう。心細いときがあっても、心を通わせることのできる誰かが、きっと見つかります。そんな希望とエールを込めて、この本を紹介してみました。

それではまた、どこかの扉でお会いしましょう！



## 新刊 PICK UP !

万代高等学校図書館に新しく入った本の中から、おすすめを紹介します。気になるものがあったら、ぜひ借りてみてください。

### 『駈込み訴え』

太宰治 著  
立東舎



ぜひ「音読」して  
いただきたい！

文豪の短編作品をイラストブックにしたシリーズの一冊。太宰治の作品では私はこの「駈込み訴え」が一番好きです。キリスト教で裏切り者とされるユダの独白で綴られる本作。師を慕う心と、それが報われないための憎しみや嫉妬、背中合わせの感情が見事に描かれています。全集や短編集の中の一編としてしか読めなかったものが、一冊の本になったのが嬉しすぎて紹介します。イラストも綺麗。他にも谷崎潤一郎や泉鏡花、夏目漱石、江戸川乱歩などの作品が多数ラインナップ。『文スト』好きにはたまらんはずです！

### 『今日、誰のために生きる？』

ひすいこたろう × SHOGEN 著  
廣済堂出版



タイトルの言葉はアフリカ、ブンジュ村の朝のあいさつ。ある日、タンザニアのペンキアート「ティンガティンガ」に会い衝撃を受けた SHOGEN さんは、その日に会社を辞めてアフリカに飛びました。ブンジュ村で画家修業を続けながら、少しずつ村の一員になっていく過程で、人生に大切なたくさんの教えを受けた SHOGEN さん。しかし驚いたことに、その教えの源は日本人だったと聞かされます。一体どういことでしょうか？

「自分の人生を生きる」ということの意味を教えてください。ちょっと不思議な実話です。

### 『光のところにいてね』

一穂ミチ 著  
文藝春秋



古びた団地の片隅で出会った、小学2年生の結珠と果遠。お互いにかけてがえのない存在となった2人でしたが、それぞれを取り巻く環境に翻弄され、引き裂かれてしまいます。高校生になって再会するも、またも残酷な別れが。大人になって運命の再会を果たしたときも、心は数々のしがらみに縛られていて…

出会いと別れを繰り返しながらも、一つの愛を守ろうとした2人の結末を読んでみてください。

今年度、最後の図書館だよいはいかがでしたか？

皆さんがこれから行く道に、どうかたくさん  
の花が咲きますように。良い風が吹きます  
ように。そして良い人、良い本との出会いが  
ありますように。ずっと応援しています！

